

雲仙岳の火山活動解説資料（平成 22 年 9 月）

福岡管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 9 月の活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 1）

噴気は観測されませんでした。

・地震や微動の発生状況（図 1、図 2）

火山性地震の月回数は 3 回（8 月：6 回）と少ない状態で経過しました。震源は平成新山直下の浅いところに分布し、これまでと比べて変化はありませんでした。

火山性微動は観測されませんでした（8 月：なし）。

・地殻変動の状況（図 3、図 4、図 8）

GPS 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。8 月に実施した GPS 繰り返し観測では、前回（2006 年 9 月）と同様に火山活動によると考えられる変化は認められず、ドーム及び火道の熱収縮とドーム自体の流動による変形が継続して認められました。

・熱活動（図 5～7）

8 月 31 日に実施した現地調査では、前回（2008 年 12 月 10 日）の観測と比べて熱異常域の分布に変化は認められませんでした。

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 22 年 10 月分）は平成 22 年 11 月 9 日に発表する予定です。

※この資料は気象庁のほか、九州大学及び長崎県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』及び『数値地図 10mメッシュ（火山標高）』を使用しています（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。

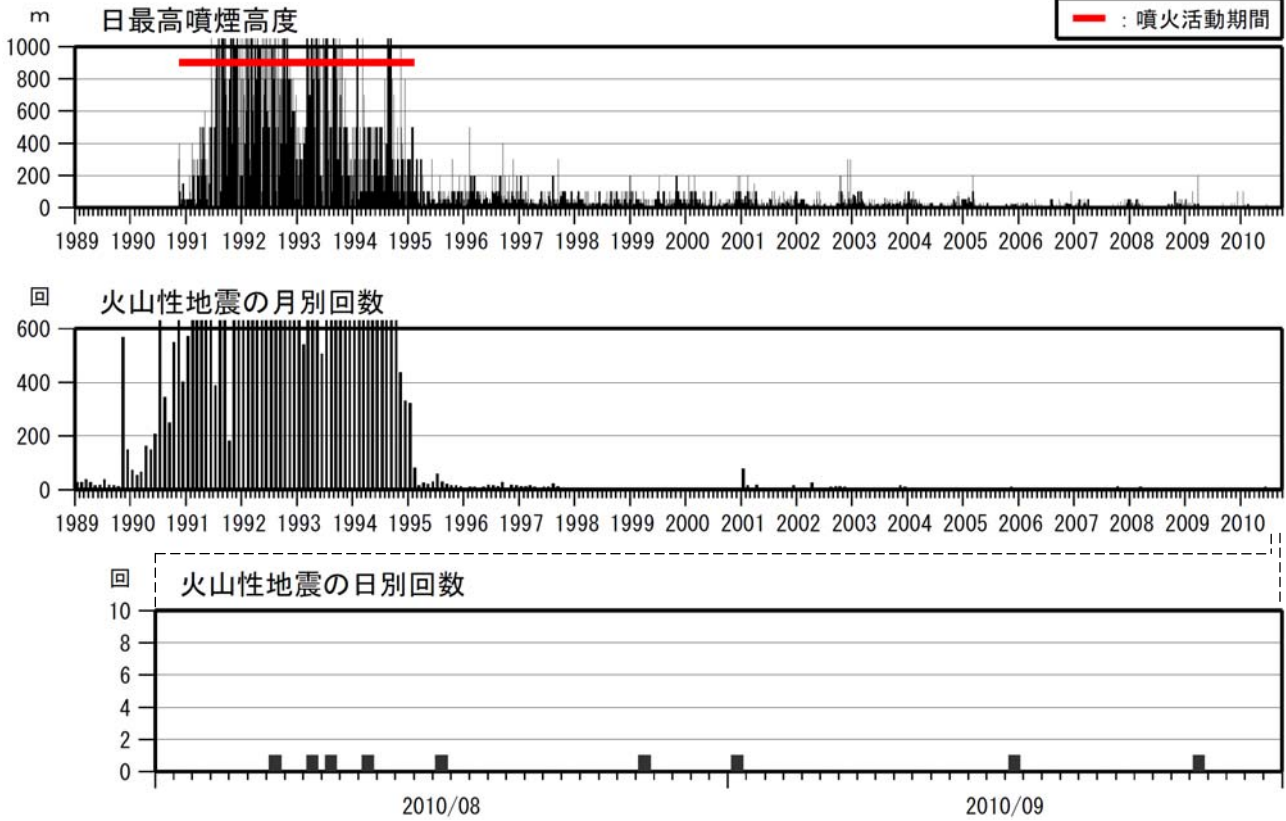


図 1 雲仙岳 火山活動経過図（1989 年 1 月～2010 年 9 月）

噴気活動、地震活動ともに静穏な状態で経過しています。

< 9 月の状況 >

- ・噴気は観測されませんでした。
- ・火山性地震は少ない状態で経過しました。

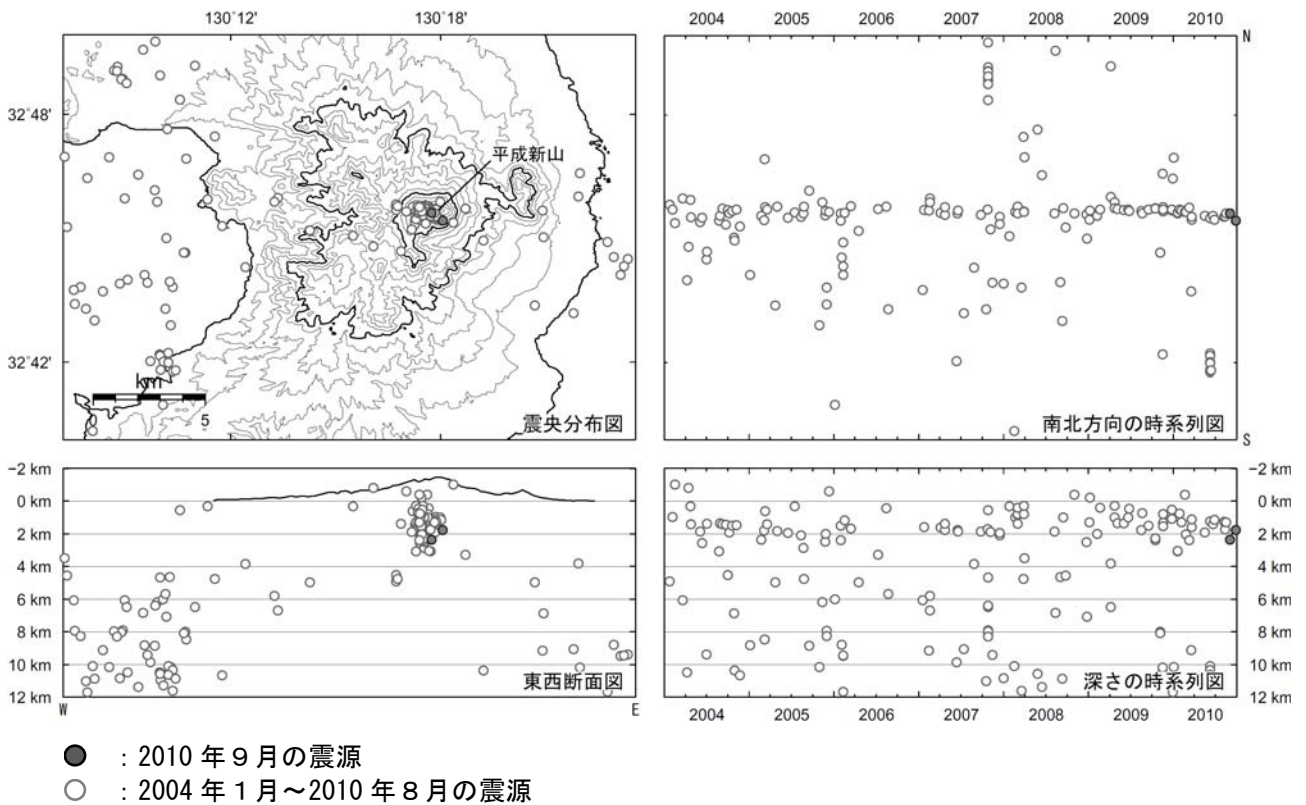


図 2※ 雲仙岳 震源分布図（2004 年 1 月～2010 年 9 月）

< 9 月の状況 >

火山性地震の震源はこれまでと同様、主に平成新山直下の浅いところに分布しました。

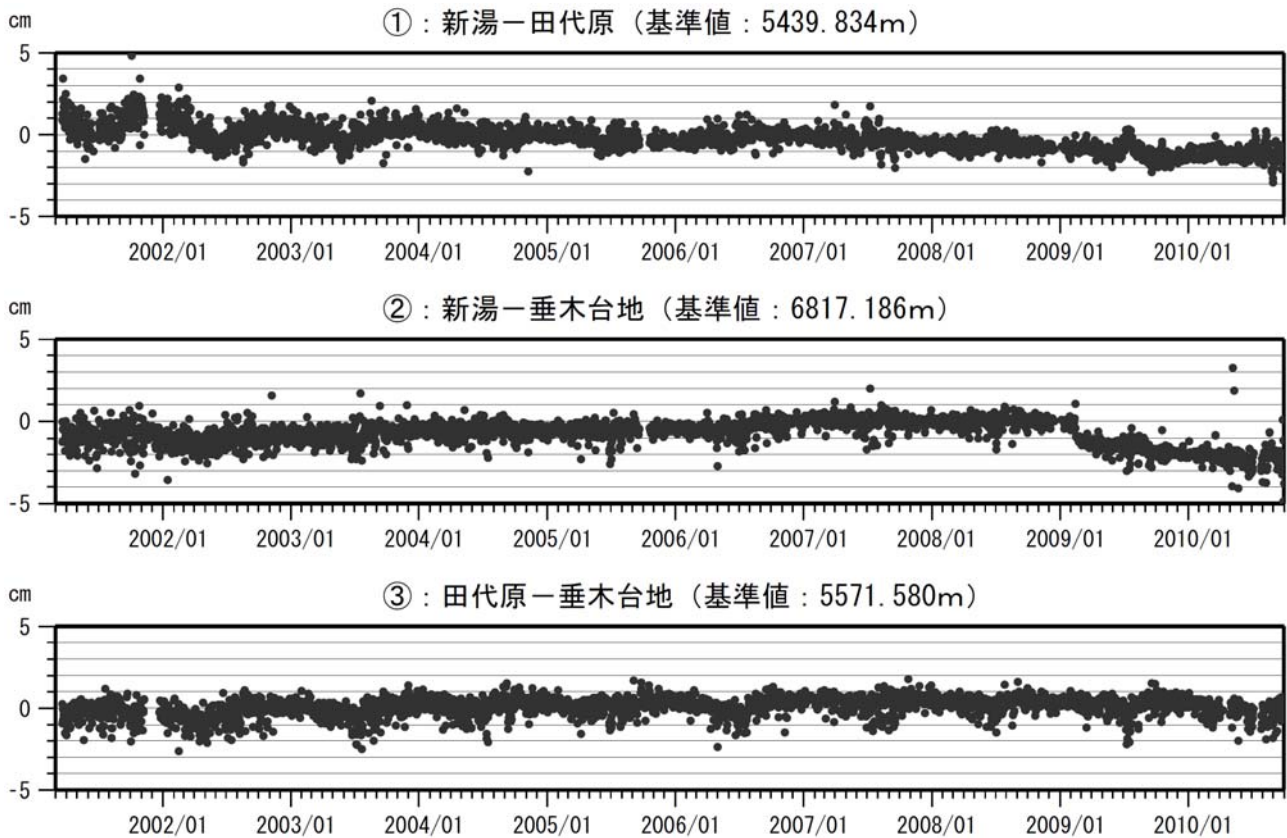


図 3 雲仙岳 GPS連続観測による基線長変化（2001 年 3 月～2010 年 9 月）

この基線は図 4 の①～③に対応しています。

①、②の基線にみられる 2009 年 2 月の変化は、雲仙岳観測所の庁舎解体に伴う変動と考えられます。

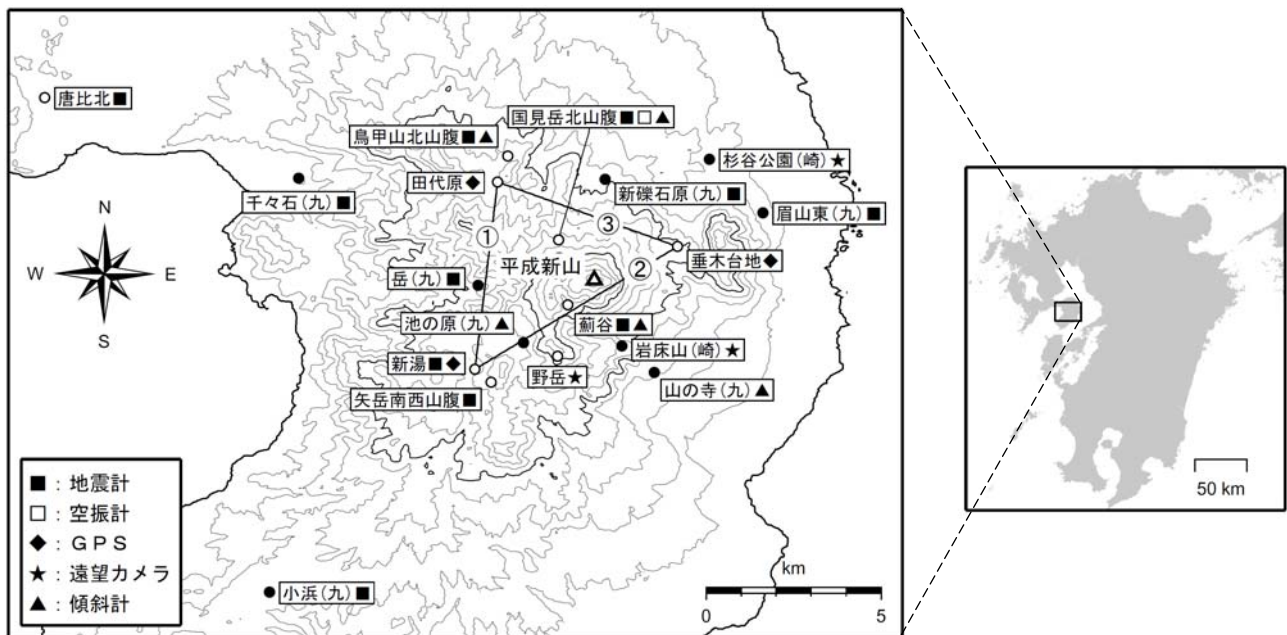


図 4 雲仙岳 観測点配置図

小さな白丸は気象庁、小さな黒丸は他機関の観測点位置を示しています。
運用開始前の観測点も含まれます。

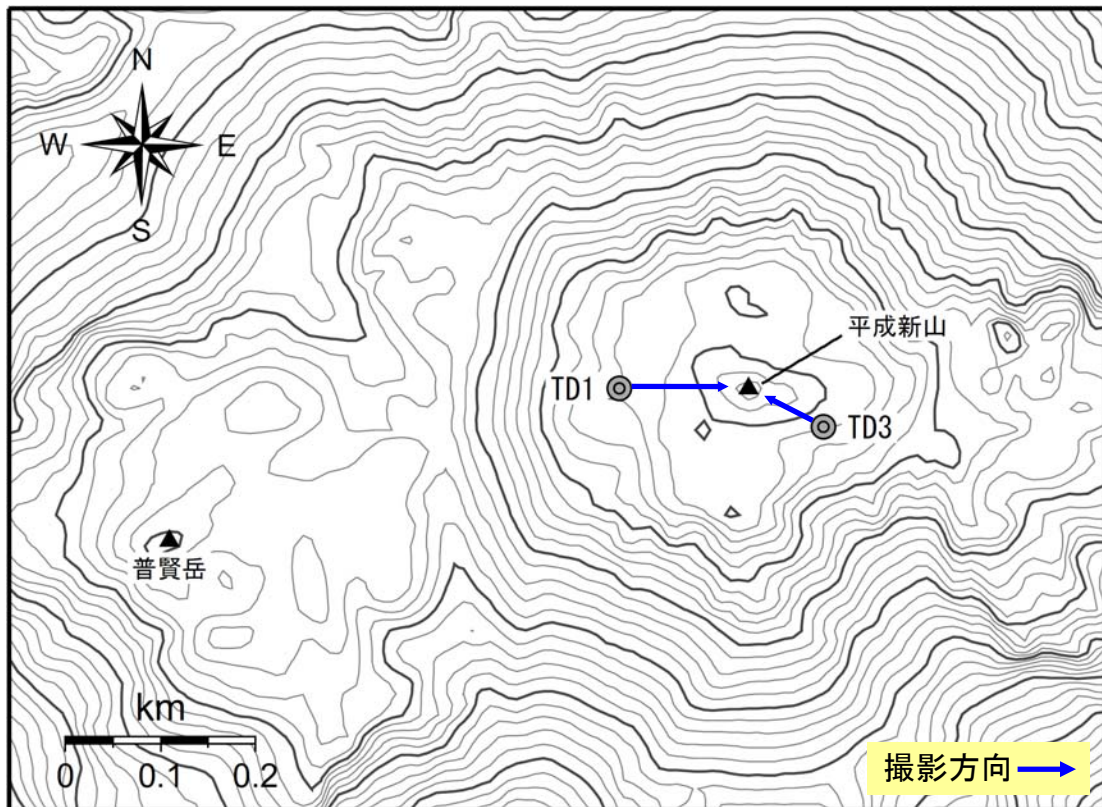


図 5 雲仙岳 赤外熱映像観測点配置図

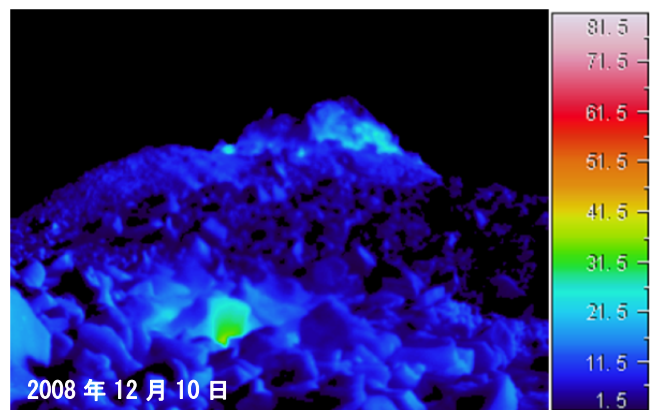
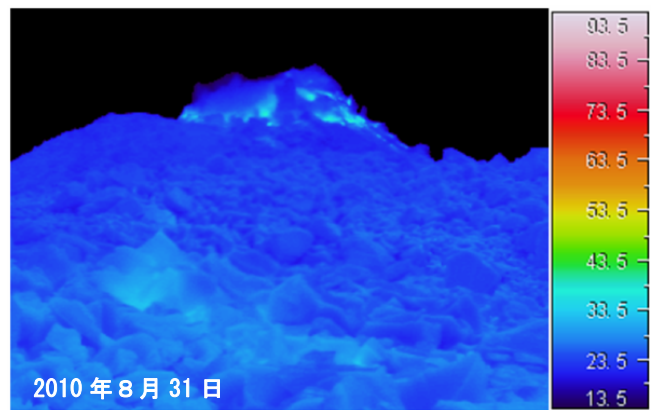


図 6 雲仙岳 赤外熱映像装置による平成新山山頂部の地表面温度分布（TD1 から撮影）
 熱異常域の分布は前回（2008 年 12 月 10 日）と比べて変化は認められませんでした。
 赤外熱画像の温度表示レンジは、熱異常域ではない領域の平均温度で調整して表示しています。

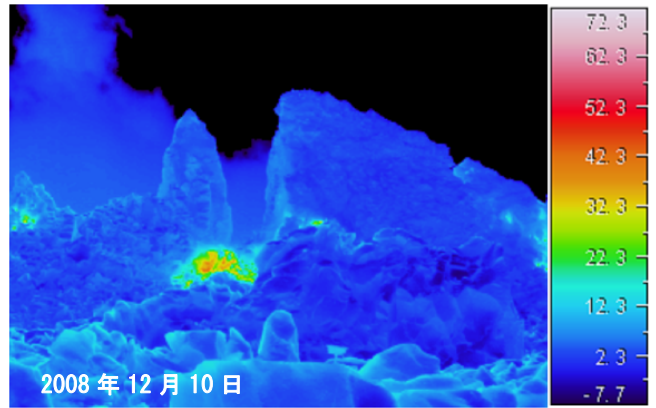
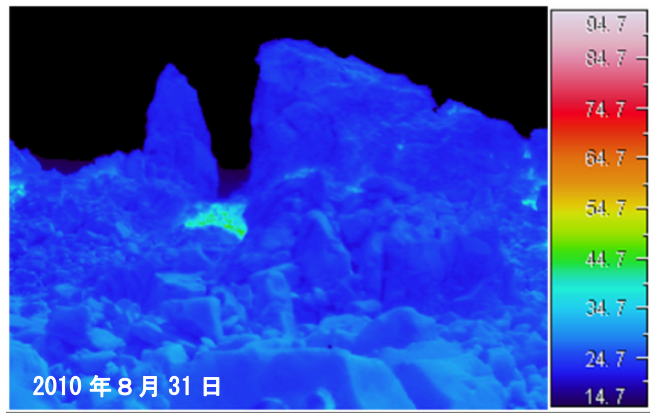


図7 雲仙岳 赤外熱映像装置による平成新山山頂部の地表面温度分布（TD3 から撮影）
熱異常域の分布は前回（2008年12月10日）と比べて変化は認められませんでした。
赤外熱画像の温度表示レンジは、熱異常域ではない領域の平均温度で調整して表示しています。

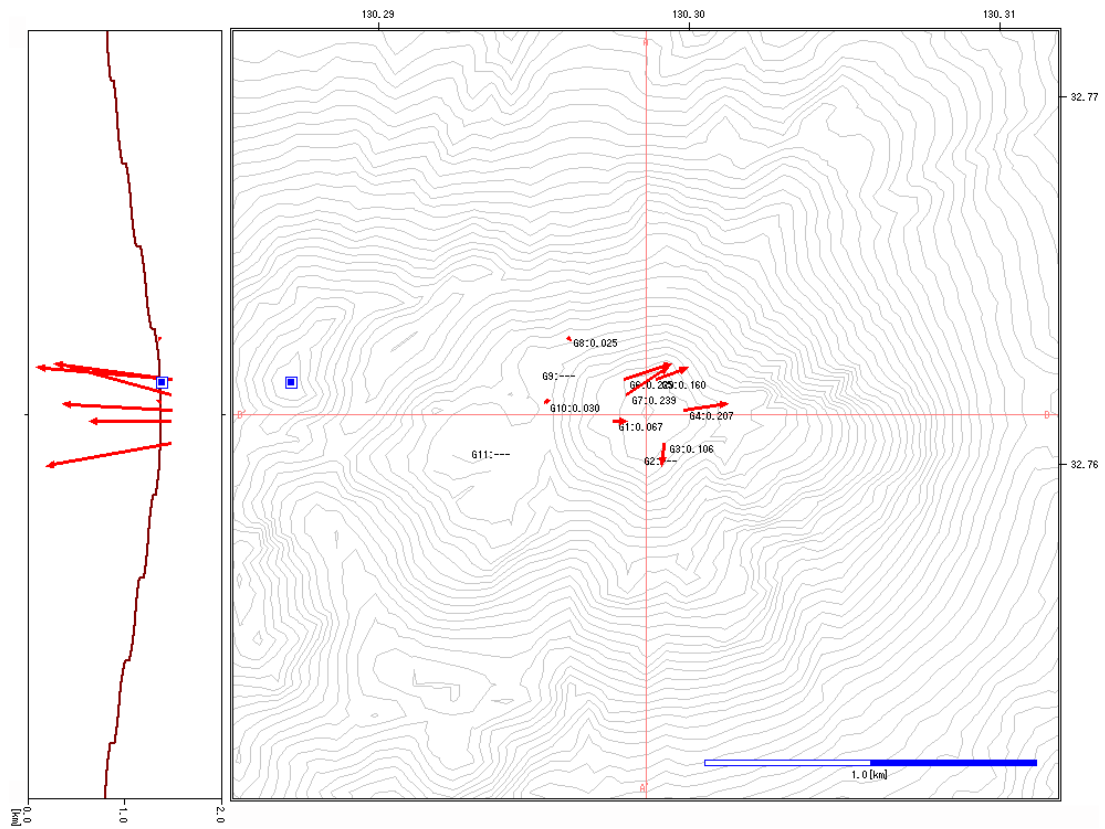


図8 雲仙岳 GPS 繰り返し観測による国見岳（GO）を基準とした相対変位変動量
8月に実施したGPS繰り返し観測では、前回（2006年9月）と同様にドーム及び火道の熱収縮とドーム自体の流動による変形が継続して認められました。